釧路市における都市構造可視化ツールの活用事例

北海道　釧路市
都市計画課

1.はじめに

釧路市の概要

位置：北海道東部

人口：174,742人（北海道第４位）※平成27年国勢調査より

面積：1,363.29平方km（全国第８位）※令和元年全国都道府県市区町村別面積調より

主な産業：水産業、製紙業など

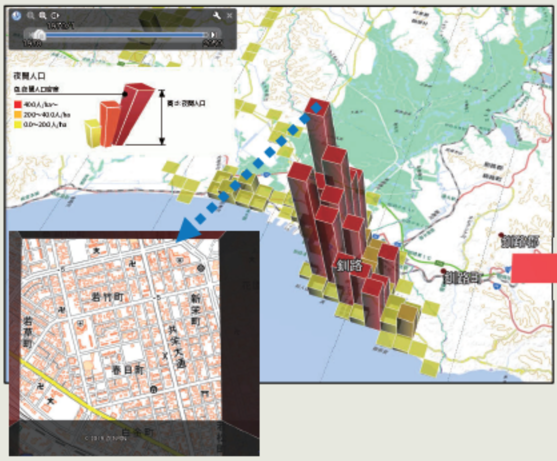
出典：釧路市HP

2.釧路市の抱える課題①

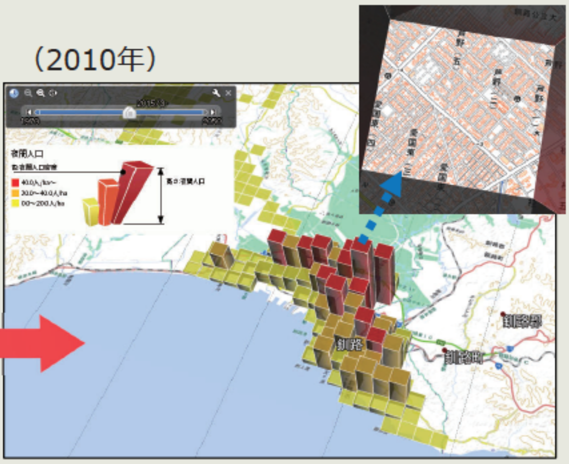
居住の低密度化

「夜間人口分布の経年変化」

（1970年）



（2010年）



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

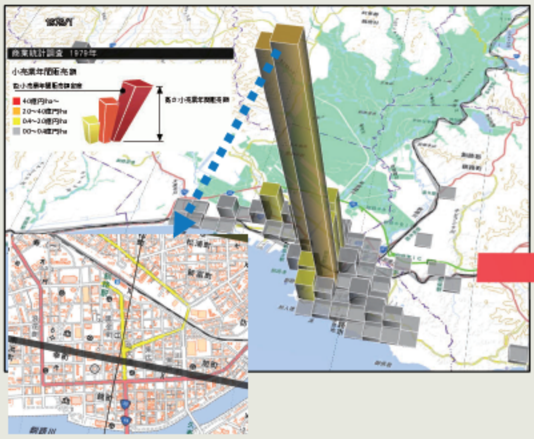
以前は釧路市の中心部に職住一体の市街地が形成。しかし、昭和後期以降に郊外部にて宅地開発が進んだ結果、市街地が拡散し、人口密度の低下が懸案事項となっている。

3.釧路市の抱える課題②

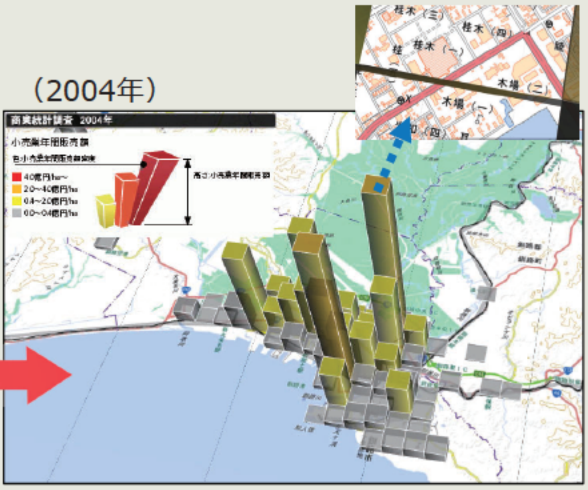
都市機能の拡散、中心市街地の魅力低下

「販売額の経年変化」

（1979年）



（2004年）



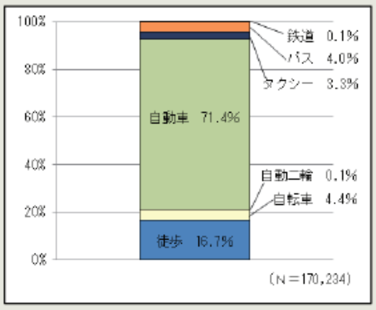
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

現在、行政・金融・交通機能等の集積する釧路市の中心部の販売額は大きく下落し、代わりに宅地開発に伴い形成された新たな商業地が販売額を伸ばしたことで、都市機能の拡散、中心市街地の魅力低下が起きている。

4.釧路市の抱える課題③

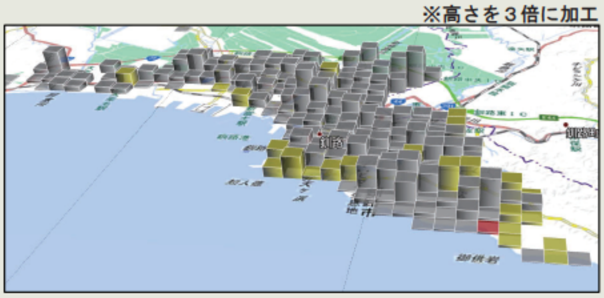
自動車への依存

「交通手段分担率」 出典：釧路市



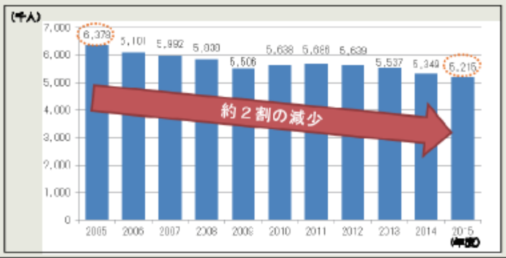
「通勤通学に公共交通を使う人の割合」

※高さを３倍に加工



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

「市内バス交通の利用者数」 出典：釧路市

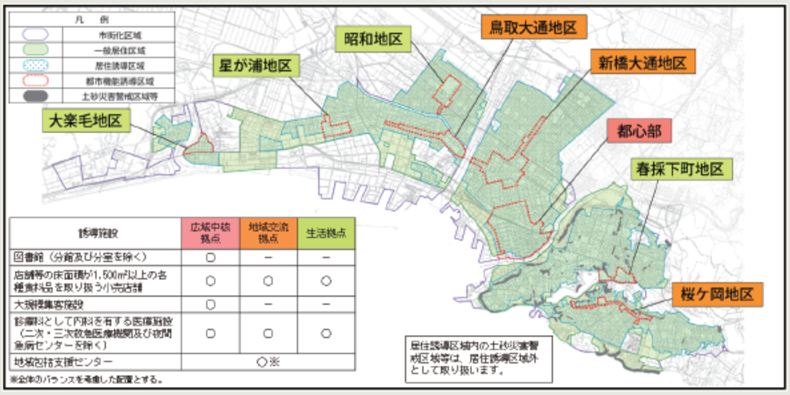


移動手段の割合を示す交通手段分担率については、自動車が全体の大部分を占め、主要な公共交通であるバスは4.0%にとどまる。
通勤通学に公共交通を利用する市民は少なく、路線バスの利用者数も減少を続けるなど、自動車依存の実態が存在する。

5.課題解決のための施策①

釧路市立地適正化計画の策定（平成29年3月）

誘導区域及び誘導施設図 出典：釧路市



誘導施設	広域中核拠点	地域交流拠点	生活拠点
図書館（分館及び分室を除く）	○	－	－
店舗等の床面積が1,500㎡以上の各種食料品を取り扱う小売店舗	○	○	○
大規模集客施設	○	－	－
診療科として内科を有する医療施設（二次・三次救急医療機関及び夜間急病センターを除く）	○	○	○
地域包括支援センター	○※		

※全体のバランスを考慮した配置とする。

都市機能誘導区域：８箇所

誘導施設：５施設

居住誘導区域面積：3,123ha

都市機能誘導区域面積：498ha

目標値：

居住誘導区域内の人口密度
【48.8人/ha(現況値)
→40.0人/ha(2035年)】 ほか

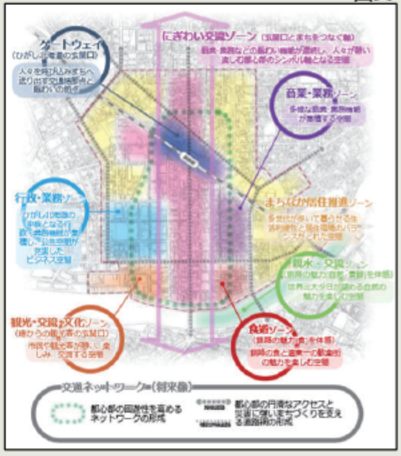
釧路市を取り巻く諸課題に対応するため、平成29年3月に釧路市立地適正化計画を策定。
本計画では、人口が減少しても一定の人口密度を保つことを目指し、**「居住誘導区域」**と８つの**「都市機能誘導区域」**をそれぞれ定め、各種行政計画・施策との連携や誘導施策を行うことにより、コンパクトなまちづくりを具体的に進める。

6.課題解決のための施策②

関連する計画について

①釧路都心部まちづくり計画（基本構想編、事業構想編）

出典：釧路市



釧路市の顔である都心部（釧路駅周辺）の将来の望ましい姿などを示す「基本構想編」を平成31年3月に策定。今後、具体的な施策を示す「事業構想編」を策定予定。

②釧路市地域公共交通網形成計画、釧路市地域公共交通網再編実施計画

出典：北海道運輸局

持続可能な公共交通網の形成を目的として、釧路市地域公共交通網形成計画を平成29年6月に策定。また、令和元年10月に再編を実施し、イオン昭和店を乗り換え拠点として設定。

釧路湿原　どんぱく花火大会　阿寒湖畔

阿寒湖のマリモ　丹頂鶴　幣舞橋からの夕日